

ふじえだ vol.2 グリーン・ツーリズムガイド

知れば知るほど奥が深い歴史の宝箱

葉はなし梨

1 大沢峡

5月下旬になると美しい蛍の乱舞を見ることができます。幻想的な蛍の舞は感動そのものです。大沢峡(タル)と白藤の滝の一つ、雨ごいの滝では、その昔、雨ごいが行われていました。これは、葉梨は山々が深くないため、雨が降っても貯水できず、流れてしまうからなのです。



2 八幡神社(西方)

天喜元年(1053)、源義家が奥羽東征の時、勸請されたといわれ、花倉の八幡神社と同時に建てられました。社前に天然石の常夜燈があり、大切にされています。



3 津島神社

天保3年に再建されたもので、大正7年に事比羅神社を合祀して、須佐之男命と大物主命を祭神としています。



4 葉梨堂の里

白ふじの里周辺の葉梨川では、5月下旬になると蛍が群生し、初夏の夜、美しい光を放ちます。



ホタル

5 葉梨神社

創立年月は不詳です。安楽寺の奥宮として祀られ、古くは「橋神社」「牛頭天王社」と称していたようです。元禄16年(1703)の再建の棟札が残っており、「古来、葉梨の谷、郷中の惣領守なり」と記されています。境内の楠の木は樹齢千年とも言われ、毎年7月13日に例祭が行われます。



葉梨神社の楠

6 白藤の滝

白藤の滝は、高さ約20m、その他に観音滝や行者の滝など七つの滝があります。5月には、滝の周辺や入口にある白藤公園、駐車場で白藤を見ることができます。



白藤の滝



観音滝



行者の滝



白藤

7 妙台山 自性院 安楽寺

藤枝市内で唯一の天台宗寺院の古刹です。寺伝によれば、行基菩薩が東国行脚の折に神亀5年(728)に「自性院」を開創。その後天台宗の「安楽寺」となりました。県の指定文化財、鯉口と武田信玄が使ったとされる水晶の大数珠などが残されています。



8 手づくり体験工房 白ふじの里

パン・味噌作り等の各種体験が楽しめる施設です(要予約)。また、ギャラリー展やお茶やコーヒー(有料)を飲みながら気軽に休憩できる「いっくく処コーナー」や地元産の新鮮野菜等の販売コーナーがあります。施設周辺の川沿いに植えられているアーモンドの木が春に薄ピンク色の可愛い花を咲かせます。

藤枝市北方481-1 638-4155
東名焼津ICより車で30分
新東名藤枝岡部ICより車で7分



白ふじの里



アーモンドの花

9 宝樹山 盤脚院 (藤枝霊園)

曹洞宗の寺院で、藤枝大観音は青銅製の観音像としては日本一の高さを誇ります。徳川家康が鷹狩りに来た場所であり、藤枝七福神の布袋様が本堂に二体、境内に一体あります。



10 花倉城跡(葉梨城とも)

創業は、南北朝時代で今川氏二代・範氏が駿河国の支配のため島田の大津城に來た折、軍事拠点として築城され、駿府入府後は今川館の西の志太地区を抑える城として機能しました。現在は、市の指定史跡となっています。



11 事比羅神社

享和2年(1802)讃岐国金比羅宮より勸請したと伝えられています。4月10日の例祭日には、参列者に赤飯のむすびを配り、戴く習わしがあります。



12 岩清山 蓮久寺

大慶寺の七世住職日義が開山となり、隠居寺として開創した寺院です。七面大明神のお寺として知られています。



13 石龍山 灌溪寺

田中城主の依田信蕃が開基となり、開創した寺院です。



14 毘沙門堂 多聞殿

伝説では、生毘沙門と称された波梨入道が没して、毘沙門堂を建立したのが始まりといわれています。お堂の脇には、「入道が滝」と呼ばれる霊泉があり、寺の名もこの滝に由来しているとも言われています。今川家の香花所(菩提寺)となったこともあり、奥に墓があったといわれています。1月2日は毘沙門堂の例祭日です。



毘沙門のだるま

15 福聚山 常楽院

華中宗舜大和尚が開山となり、明応9(西暦1500)年に開創した曹洞宗の寺院です。木喰上人作毘沙門天像(市指定文化財)が所蔵されています。この毘沙門天は高さ125cm、甲冑を身につけ左手には百万塔を持ち、右足で邪鬼を踏みつけている姿をしています。



16 二宮神社

創立年月は不詳です。天和3年(1683)に再建されています。近江の国、日枝神社より勸請されたと伝えられています。10月8日が例祭日です。



17 普門山 補陀洛寺

曹洞宗寺院の古刹です。寺伝によれば、行基菩薩が神亀2年(725)に開創とされています。本尊は行基作とされる馬頭観世音菩薩です。駿河33観音の7番札所としても知られています。



18 貴船神社

創立年月は不詳です。享禄3年(1530)に再建されています。諏訪神社、楠神社、浅間神社が合祀されています。10月10日が例祭日です。



19 大楊山 長慶寺

今川家の氏寺で、今川氏三代・泰範を開基として開創された由緒ある寺院です。墓地の一角に今川泰範の五輪塔、雪斎長老の無縁塔があります。寺宝として金銅製の観世音菩薩像と今川義元の発給文書三通が保存されています。



20 天神社

寛永18年(1641)、京都北野天満宮より勸請したといわれ、菅原道真公を祀っています。



21 華蔵山 偏照寺

今川時代、寺の前には今川館があり、居館と寺院全体を含む城郭がありました。真言律宗の寺院「遍照光寺」として延元元年(1356)今川範氏が開創。以後、今川一族の男子の修行の寺となりました。二代範氏、嫡子氏家の墓があります。花倉の乱の一方の主役、玄広恵探(良真)は、この住職でした。



22 八幡神社(花倉)

天喜元年(1053)、源義家が奥羽東征の時、宇佐八幡宮より勸請されたといわれています。2月に特殊神事として2枚の的の矢を放つ「弓始祭」。9月20日の例祭には、牛の舌餅や島田醬の形の島田餅が献供されます。



23 修福山 利勝院

洞雲寺三世信屋聚哉が開山となり、永禄7年(1564)開創した曹洞宗の寺院です。開基の内藤三太夫は、今川家の家臣で今川家が駿府に移るのに際して自らの屋敷や田畑を寺院に寄進しました。今でも三太夫屋敷という小字があります。



24 白山神社

創立年月は不詳です。加賀の白山比咩神社より勸請されたといわれ、元禄15年(1702)に再建された記録があります。



25 櫻宮神社

創立年月は不詳です。かつては元蔵王権現と称しましたが、明治8年に櫻宮神社となりました。一説に、飽波神社だとするものもあります。終戦後は、この神社で「ピンポン大会」や「素人落語大会」なども行われました。参道には桜並木があり、両脇にあるため池(二ツ池)では、カワセミが見られます。



26 福田山 最林寺

「駿河記」や「駿河志料」によると、開基は朝比奈氏で旧宅の跡に建立されたと言われています。「駿河志料」によると、天文年間から永禄年間にかけて三河吉良上野介義安が今川義元に捕らえられ、この葉梨村に幽閉されていたことがあった、その幽居していたのが、最林寺か中藪田の大屋敷と言われています。



問合せ先

藤の瀬会館
藤枝市中山間地域活性化推進課
tel.639-0120
葉梨西北活性化施設
白ふじの里
tel.638-4155

◆参考文献

寺院/藤枝志太仏教会発行
「藤枝・岡部・大井川の寺院」より
神社/静岡県神社庁志太支部発行
「志太地区神社誌」より

ふじえだ グリーン・ツーリズムガイド vol.2

はなし 葉梨マップ

鉱泉(温泉橋)

かつて西方には、二箇所に鉱泉が湧いていました。一箇所は、奥沢の硫黄泉、もう一箇所は、栗下の塩類泉です。奥沢の温泉入口に温泉橋と名づけられている橋があります。



葉梨ブランド茶 「葉梨物語」

香りのある良質な茶葉の生産地として知られる葉梨地区。地域の生産者が丹精込めて栽培した茶葉のみを使用し仕上げた「葉梨物語」は飲むと昔懐かしさを思い出させてくれる、程良い渋味と甘味・芳醇な香気が特徴的なお茶です。



ハイキングコース 天王山コース

三ツ石バス停で降り、葉梨川沿いの道を北へ進み、道標に沿って右に折れ、白藤団地を一番奥まで行くと白藤の滝駐車場があります。滝へ向かって進み、滝の手前の農道を西に折れてしばらく行くと、葉梨神社です。社の脇を北へ登ると天王山の山頂です。帰りは、葉梨神社を通過し、さらに南へ向かい、安楽寺を通り、下山します。



藤枝駅前バス停	25分 ↓
三ツ石バス停	20分1.5km ↓
白藤の滝駐車場	10分0.5km ↓
白藤の滝	17分0.5km ↓
葉梨神社	30分0.8km ↓
天王山山頂	30分0.8km ↓
葉梨神社	5分0.2km ↓
安楽寺	15分0.8km ↓
西方組合前バス停	30分 ↓
藤枝駅前バス停	

ハイキングコース 花倉城跡コース

この地域は、今川一族に関わりが深く、史話や伝説の多いところです。少し足を延ばして八幡神社や今川一族の居館があったという偏照寺に立ち寄るのもいいでしょう。長慶寺から上川の村を道なりに進み、上川池を右手にしながら左折して山に登っていくと樹木の茂った山頂にある「花倉城跡」(葉梨城跡)に着きます。山頂付近には空堀や土塁等がはっきりと残されていて、志太平野や駿河湾を一望できます。帰りは峠を越えて盤脚院に出ます。

藤枝駅前バス停	20分 ↓
中田バス停	40分2.2km ↓
上川池	50分1.9km ↓
花倉城跡	55分2.8km ↓
山寺入口バス停	25分 ↓
藤枝駅前バス停	

新東名藤枝PA(上り)



新東名藤枝PA(下り)



花蔵の乱

花蔵の乱は天文5年に前当主・今川氏輝(うじてる)と弟、彦五郎が同日に亡くなったことによる、今川氏の家督争いです。氏輝には子がなく、家督候補者として氏輝の2人の弟が争いました。1人は今川義元で、氏親(うじちか)の正室の子です。正室の子である義元が家督継承者としてもっともふさわしいとする一派と、今川家の重臣の側室の子で、義元よりも年長の今川良真を推す一派に二分されました。当時、良真(僧名:玄広惠探)は花倉の遍照光寺の住持になっていたため、「花蔵殿」と呼ばれていました。乱は、当初今川館のあった駿府周辺で始まり、焼津市の方ノ上城から藤枝市の葉梨城へと展開しました。惠探たちは葉梨城を捨て瀬戸ノ谷に逃れ本郷の亀ヶ谷沢で自害し乱は終息しました。今までは、花倉地域でおこった反乱という意味で「花倉の乱」と呼んでいましたが、最近では花蔵殿にちなみ「花蔵の乱」と呼ぶのが一般的です。

